（別紙4（2））

事業所名 グループホーム中山道

目標達成計画

作成日： 平成 24年 4月 11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	日常、職員と利用者さんのやり取りの中で、気になるやり取りや言葉が見られる。また、職員自身、不適切な言葉や対応をとってしまった事を気付く場合と気付かずに言っている事がある。	人生80年90年という長い人生を歩んでみえた方々に対して、お一人お一人を敬い尊重し、目上の方に対する態度、言葉使いに気をつけ、失礼のない対応ができるように努力していく。職員は認知症の方に対してどう関わらせていただく事が尊厳を守る事なのかという事を理解し、認知症になっても人として最期まで楽しく生活が送れるような支援をさせていただく。	職員一人一人が研修会へ参加したり学習会を行い、認知症の方々に対しての理解と対応など専門的な知識を身につける。日々のやり取りの場面や事例を通し、職場内で意見交換ができるようにし、カンファレンスや勉強会、ミーティングの中でお互いに気づき、助言できる場を作り介護職としての専門性を身につけ、高めあえる関係を築く。	12ヶ月
2	23・38	物事に対して、やりたい、やりたくないと言う事に対する尊重はできているが、『その日をどのように過ごされたいのか。』の支援というより、こちらの都合（時間）によって利用者さんに動いていただいたり、介助をしていまっている事がある。	その方の状態やご気分を把握し、その方のペースに合わせた支援や言葉かけができるよう心掛ける。 お一人お一人の思いを理解した援助ができる。	利用者さんとコミュニケーションを取り、話の内容や様子、反応を見ながら一方的にこちら側の都合で物事を行ったり、決めつけたり、介助しないよう心掛ける。その方が、何を望んでみえるか、どのような生活を過ごしたいと思ってみえるかを理解できるようお一人お一人、日常のやり取りを通して知る。また、利用者さんが思いを話せるように、ゆったりと話を聞ける時間を持つ。	12ヶ月
3	34	新しい職員も増え、メンバーが変わってからは、利用者の急変や事故発生時に備えて、応急手当、初期対応の訓練が行えていない。	定期的な訓練を行い身につけ、緊急時に実践できるようにする。、	なるべく早い時期に応急処置、救急救命の講習を受け、定期的に受講する。	12ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。